



一一〇十一夏

www.syogei.com

vol. 8

アフリカの 物達と



私にとってのアフリカは「アッ」と感じた物達との関係だけ。あとはテレビで見たわずかの映像と数冊の雑誌。珈琲美美で買う豆。毎日飲むので付き合いは一番深い。主人の森光さんは何度もアフリカに行っている。エチオピアの奥地にコーヒー豆の原木を尋ねてもいる。そんな深い係わりを私は持たない。なのにアフリカが大きな存在だ。時が来たらドゴンを尋ねたいと思っている。

「アッ」文・書：前崎鼎之



始まりは

文・書：前嶋鼎之

二四の時、目を鍛えるために古美術探検の旅をしようと、二ヶ月教室を休んで京都奈良を旅した。途中予定を変更して新潟に足をのばし良寛の足跡も尋ねるところとなりした。京都をゆっくり見て回ろうと思ったのだが、旅行案内を見ていると奈良の「日吉館」が面白そうだったので、そちらへ行つた。會津八一や文人達の常宿というのが目を引いた。たまたま京都の古本屋で會津八一の作品集に出会い、びっくりして買い求め家に送つたところだつた。尋ねた日吉館は若い貧乏旅行者のたまり場だった。文豪の空気と廉さを求めて多くの学生が、ここを拠点に奈良を巡つていた。その内の芸大の三井卓夫君と美大の長枝春一君と気があつて、あちこち一緒に見て回つた。そのうち二人の旅も終わりに近づいて別れることになつたが、長枝君から横浜の家

に来るよう誘われた。

予定を変更して良寛を見に行くことにし長枝君の家を尋ねた。お母さんが染織家の芹沢鉢介のお弟子さんだったので、それまで全く知らなかつた民芸の世界を目当たりにすることとなつた。家にある物が我が家とは全く違つていた。食器棚の美しさに目を奪われてしまつた。民芸は素晴らしい輝いていた。

横浜まで来たので鎌倉の藍田先生にご挨拶に寄ると、新潟大の加藤先生を紹介いただいた、宿は北九州出身の学生さん下宿に泊めさせていただくことになつた。「木村家」や「良寛記念館」などを尋ねたが、その時の良寛は私にそっぽを向いていたのか、ああこれが良寛なんだと思つただけだつた。ここでも「會津八一記念館」で八一の書に出会い、八一に急接近した。帰つて来て読んだ「會津八一書論集」は私のバイブルとなつた。ところが近所だったと思うが、ふと覗いた本屋さんに「佐久間書店」と屋号が書かれて草花の彩色が施された棟方志功の扁額

が掛かっていた。ここでも民芸が係わつてくる。

そして、なんとか我が家へ帰つて来て父の本棚をのぞいてみると、そこに「柳宗悦選集」が揃つてゐるではないか。美の神がみちびいているようなおもいがした。が、まだアフリカには届かない。

民芸の教え

柳の民芸論はとても面白かった。すべての物がどれも新鮮だつた。お茶の人達はこんなことを書かれたら無視するしかないだろうと思つた。書も王羲之ばかりがいいわけじゃない、他にも沢山いいものはあるといつて、書の歴史では田舎の書として傍流におく中岳靈廟碑や爨寶子碑などを推奨して、この書風を正楷にすべきだといつていた。私も王羲之の蘭亭や集字聖教序や十七帖などを沢山書いたが、何がそんなにいいんだろうと思つてい

との長いおつきあいの始まり。そして美美さんの近所の「あまねや工藝店」を紹介してもらった。柳の教えを普及するという形で手仕事の民芸品を商っていた店主の川口さんと、一瞬のうちに意気投合してしまった。それまで見ていた民芸店とは、どことなく趣の違つたものが集められていた。様々な国の手仕事は、美しさのあり方の思いがけなさを教えてくれた。店のもの全部ほしいと思った。「生活」と共にある物達の美は柳がいうように限りない。



たので、柳が言うんだつたら面白くなくてもいかと、納得した。それほど柳一筋だった。

それから十年くらい経つたある日、天神の画廊トアールでの山本源太さんの個展で森光さんに出会つた。源太さんの陶器を並べているのでよかつたらと誘われて、苦味の深いコーヒーを飲んだのが「珈琲美美」

アフリカの物との出会い

川口さんに教えられて尋ねたのが「古道具坂田」だった。新宿の下落合にある小さなお店だった。イギリスの古い食器棚や椅子に目を奪われたが、ふと見た先に変わった文様をした藍染めの布が下がつっていた。

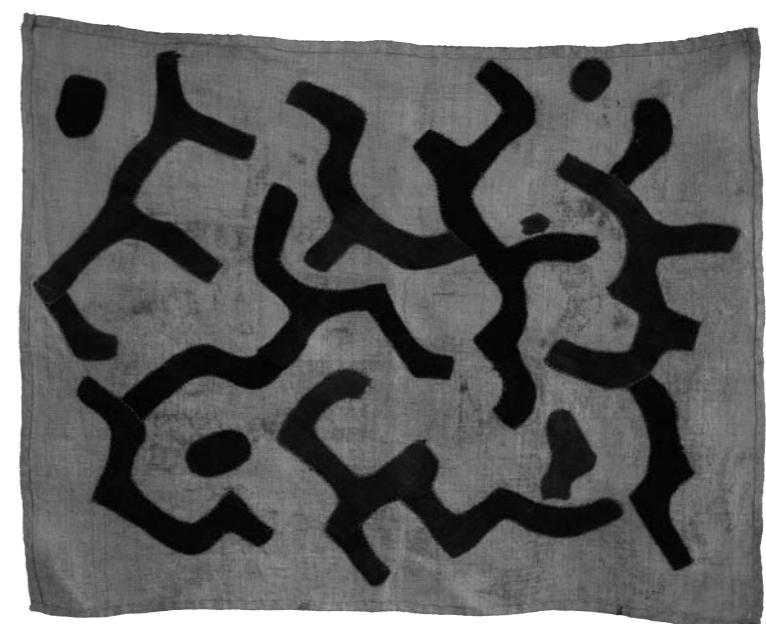
面白い布だなと手に取つたらアフリカの藍の絞りだとのこと。これが記憶にある最初のアフリカとの出会い。この布の三分の二は芹沢鉢介のところにあると聞いて、喜んで手に入れたのを思い出す。

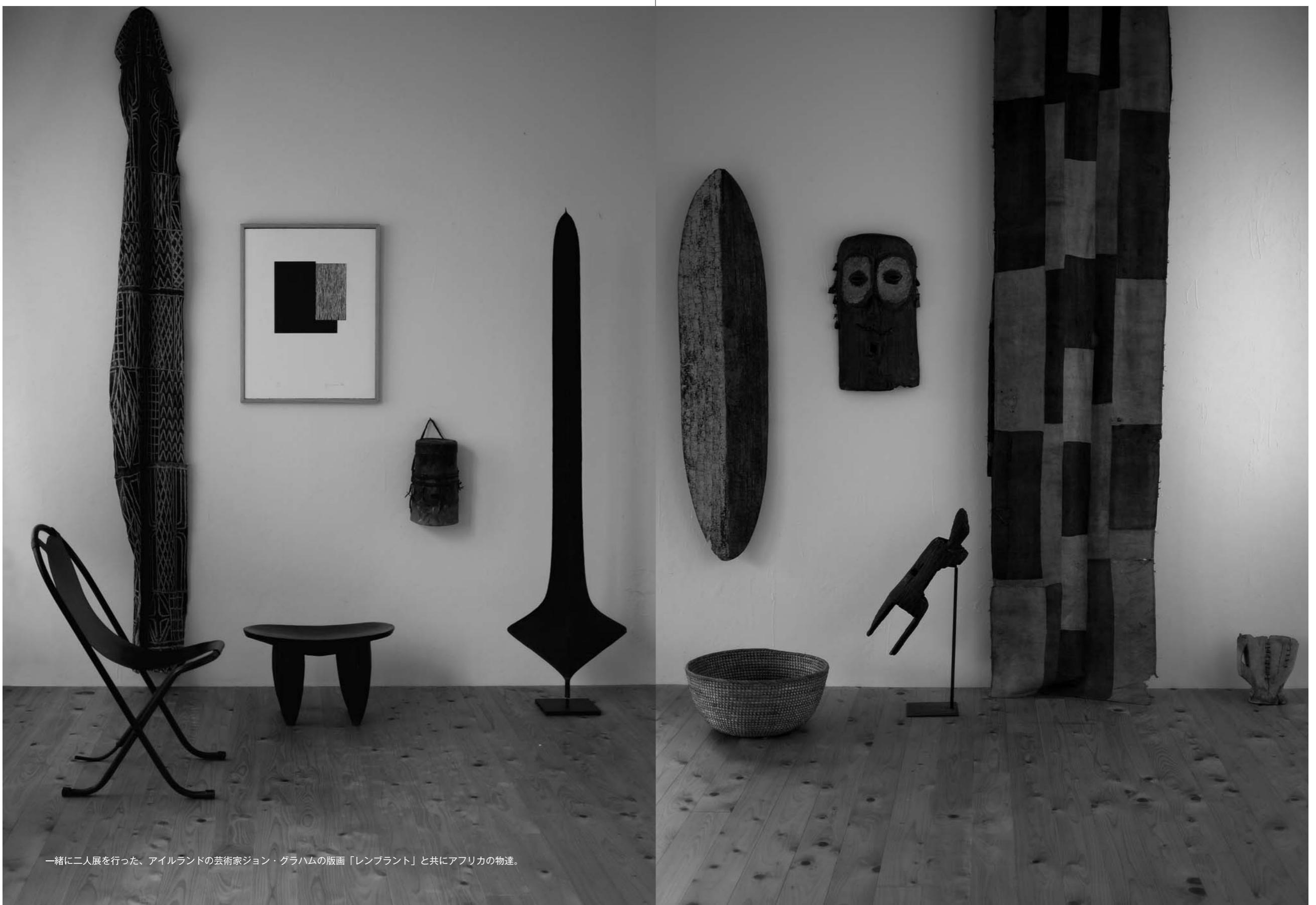
川口さんと大牟田の民芸品店にでかけて、ヌーボーとしたドゴンのお面とモジリアーニを思い出す縦長のお面に出会つた。もしかするところちらが最初の出会いかも知れない。その後、あまねやさんを通じて貨幣やドゴンの扉を坂田さんから手に入れた。

警固に「UNIVERSITY」というヨーロッパやアフリカを中心には色々な国の人々ティーケを扱っているお店があつて、ここでも面白いものを手に入れた。今は杉並区の西荻南に本店が移つたので、ネットでのお付き合いがおもになつた。ここで手に入れた布達は、大芸術家のピカリやクレーでさえ及ばない生命や美の起源を感じさせる大きな世界の存在を感じた。個人の仕事はどんなに超人的であろうと一人である。ど



うあがいても個人の色でしかない。人の営みの面白さは他との関係にある。その関係の中から生みだされてくる土俗的な物の中に、個人を超えたとてつもない輝きを湛えたものが生まれてくる。





一緒に二人展を行った、アイルランドの芸術家ジョン・グラハムの版画「レンブラント」と共にアフリカの物達。

【展覧会情報】

書・花・茶「アフリカの物達と」

○場所 アクロス福岡 交流ギャラリー

福岡市中央区天神1-1-1 アクロス福岡2F

電話 092-573-5753 (福岡書芸院)

○日付 2012年9月4日 [火] ~ 9日 [日]

○時間 11時 ~ 19時 最終日は17時半まで

アフリカの物達と書を並べてみてどのような展覧会になるか、大勢の参加者と一緒にやるので全く予想がつかない。アフリカがテーマと言えりはアフリカの物と一緒に展示するということが主題なので、アフリカについてみんなが何かを企てるということではない。ただ、この機会にこれまでとは違った表現や、言葉の選び方など新たな物が出てこないかという期待は持つている。どのような会場になるか多くの方にみていただけると有り難い。

主幹 前崎鼎之



【教室案内】

○講師 前崎南嶺・前崎鼎之・鶴長不二美

○講座内容 漢字・仮名・条幅・日常書の指導。

一般部 条幅・特別条幅製作を中心に、文化の幅広い研究とその発表。

研究部 陶印作りや言葉選びを交えて、感性を重視した指導。

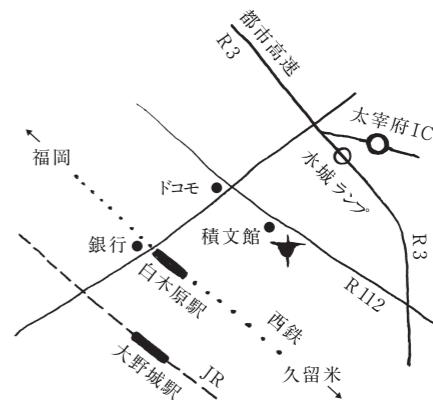
児童部

○講座日程	
一般部	火曜日 10時~12時(月3回)
一般児童部	水曜日 19時~21時(月4回)
研究部	土曜日 10時~12時(月4回)
一般部	日曜日 10時~12時(月4回)
研究部	水木金 10時~12時(月3回)
一般部	火曜日 10時~12時(月3回)

○会費	年会費 10,000円(準5級~5段)
一般部	入会金 5,250円
研究部	月謝 2,500円(準師範~同人)
研究部	年会費 5,250円(準5級~1級)
研究部	月謝 6,300円(初段~2段)
研究部	年会費 8,400円(3段~5段)
研究部	月謝 10,500円(準師範~同人)
研究部	年会費 10,000円(準5級~5段)
児童部	月謝 2,500円(準師範~同人)
児童部	入会金 10,500円
児童部	月謝 2,500円

【地図】

西鉄電車・白木原駅から徒歩 約七分
JR鹿児島本線・大野城駅から徒歩 約十五分
車・九州自動車道太宰府IC下車後 約五分



【お問合せ先】

〒八一六・〇九四三

福岡県大野城市白木原五-1-2-7

電話 / 092-573-5753

メール / jimu@syogi.com

ホームページ / www.syogi.com

発行者 / 前崎鼎之
写真 / SYU
デザイン / 前崎成一

自由であることの学び

福岡書芸院